奈良県立医科大学眼科ニュースレター　Vol. 7

ご挨拶

教授　　緒方奈保子

本年度は３名の新入医局員を迎えました。３人共極めて優秀で、臨床に手術研修に学会発表に、と励んでおり教室の大きな期待がかかっています。「三人三様」とは良く言ったもので、３人ともそれぞれ個性が素晴らしく異なっています。私は「３匹の子豚」と呼んでおりますが、誰がわらの家、木の家、レンガの家を建てるか興味深いものがあります。同期がいるというのは心強いものです。「三人寄れば文殊の知恵」などということわざや「毛利三兄弟の三本の矢」の逸話もあります。今後も三人力を合わせて勉強し成長して欲しいものです。皆様、ご期待ください。

本年４月に世界眼科学会(WOC)が東京で開催されました。参加された先生方も多くおいでのことと存じます。世界中から眼科医が集まって来ており、あまりに多くの人と多くの会場で、一体どこに行ったらいいのか分からなくなるくらいでした。e-ポスターにはちょっと戸惑いました。後ろに行列があると腰を据えてゆっくりe-ポスターを見るというのはなかなか勇気が要ります。でも、会場では多くの人と会う事もできました（写真：WOCにて。なぜか同じ身長の３人。高野繁 日本眼科医会会長、済生会新潟第二病院眼科 安藤 伸朗先生と私）。来年はAsia ARVOも横浜で開催される予定ですし、益々日本の眼科医が世界で活躍するきっかけになって欲しいものです。

しかしながら、眼科診療を取り巻く環境は厳しくなりつつあるようです。白内障手術に関しても大学病院では紹介の患者さんが多く、通院が困難だったり、全身状態が良くない、また全身麻酔が必要、など入院を要する患者さんが多いのが現実です。今度の保険改正でご存知のように、１週間の入院期間内で両眼の手術をした場合、１件の白内障手術しか算定できなくなりました。また、全身麻酔で両眼を行っても片眼の手術しか算定できず、麻酔管理料も算定できません。おそらくこの白内障手術点数に関しての影響を一番大きく受けるのは大学病院など地域の基幹病院だろうと思います。

日本は極端に高齢化が進んでいます。先日テレビのニュースで男性、女性とも世界最高齢者は日本人（111歳？112？間違っているかも）になったと報道されていました。この長寿社会を造ったのは日本の医療保険制度だと思います。米国に住む友人は普通の盲腸手術で入院手術しただけで約３００万円の保険請求が来る、と言います。アメリカの医療保険制度も問題があると思いますが、日本の医療保険制度にも大きな問題はあるのでしょう。例えば体調不良を主訴に１つの医療機関を受診し、診察を受け検査を受け投薬を受ける。しかし何となく不安なので、翌日また別の医療機関を受診する。同じように診察を受け検査を受け投薬を受ける。しかし何となく体調不良が続くので、数日後にさらに別の医療機関を受診する。同じように診察を受け検査を受け投薬を受ける。このような例でもすべて医療保険制度が適応されます（つまり税金が使われます）。医療機関や医師側は診療拒否ができません。そのため、いわゆるDr.ショッピングや不要な受診でもすべて医療保険制度が適応されます。わたくしの個人的な意見ですのでご批判を受けるかもしれませんが、このような不要な受診がかなりの部分、日本の医療保険制度の財源を圧迫しているのではないかと思います。

古くから「医は仁術」という言葉があるように日本では医師の奉仕精神が強く求められてきました。また医療費は安くあるものという考えが根強くあるように思います。アメリカでは成績トップでないと眼科医になれません。また、眼科医の社会的な地位はかなり高く経済的にも恵まれているようで、みんなうらやましいような家に住んでいます。日本では医師や医療を安く使いすぎていると思うのは私だけでしょうか？医師を取り巻く環境自体が悪化していく日本では、優秀な人材の医師離れが起こってくるのではないかと懸念しているこの頃です。

奈良県における眼科医療機関連携

日本眼科医会副会長　奈良県眼科医会会長
山岸直矢

勤務医の過重労働を改善するためには医療機関相互の連携が重要である。これについて検討し、その実現と普及を図るため、平成19年7月に奈良県眼科医会第1回医療機関連携集談会が発足した。混雑する病院の外来機能の一部を診療所が担うためには、受け皿としての診療所の資質の向上が不可欠である。そのために毎回特別講演が企画されている。

奈良医大附属病院、天理よろづ相談所病院と近大奈良病院などの病院と診療所からなるパネルを組織し、毎回テーマを決めて討論を行った。第2回集談会では地域連携パスについて検討し、第3回と第4回集談会では救急医療を取り上げた。その間、併行して医療機関連携パスについても検討を重ね、第5回集談会以後は、疾患別、往復別の連携パスの作成と改善に取り組んでいる。この連携パスの利点は通常の紹介状・診療情報提供書に比べて作成時間が半減されること必要事項の記載もれがないこと等、実際に利用するとその効果が実感される。平成20年からは臨床眼科学会のインストラクションコースにほぼ毎回採択され、医療機関連携パスの改善と普及に力を注いでいる。その結果、奈良県内の眼科医療機関では相互の連携が強化され、患者の紹介と受入が容易となり、早期の紹介と逆紹介の組合せが可能となったことで良循環を生み、風通しの良い状態となっている。結果として病院は本来の入院機能に集中し、早期に逆紹介を行うことで勤務医の負担となる外来診療を相対的に縮小できる方向に向かっている。

平成26年度も4月26日に第8回集談会を開催し、臨眼インストラクションコースにも奈良医大 松浦准教授を筆頭として演題を提出している。

現在のパネルのメンバーは、阪本卓司（さかもと眼科）、伊集院信夫（市立奈良病院）、松浦豊明（奈良医大）、三島弘（近大奈良病院）、黒田真一郎（永田眼科）、西脇弘一（天理よろづ相談所病院）、山岸直矢（山岸眼科医院）、であり臨床眼科学会にもこのメンバーで参加している。

講演会

第4回AMDフォーラムin奈良

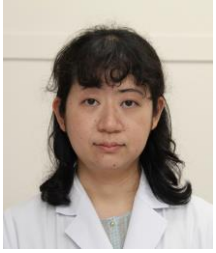
平成26年4月18日に厳橿会館にて第4回AMDフォーラムin奈良が開催されました。今回は特別講演として岡山大学眼科学教室教授の白神史雄先生にお越し頂き「独断と偏見の？硝子体手術」というタイトルで御講演頂きました。白神先生の現在行っている最先端の硝子体手術について、実際の症例とデータを多数お示しになりながら詳細に御説明頂きました。また講演後には岡山大学での手術見学にもお誘い頂きました。お言葉に甘え、数名の医局員で実際の手術を見学させて頂く予定で、今からとても楽しみです。

第7回万葉フォーラム

平成26年5月17日に橿原ロイヤルホテルで第7回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。今回は特別講演として大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学教授の白木邦彦先生にお越し頂き、「日常診療における眼底自発蛍光」というタイトルで御講演頂きました。眼底自発蛍光の発生原理や撮影方法、また実際の症例を多数お示し頂きました。OCT と眼底自発蛍光の関連性についても御解説頂き、眼底自発蛍光に対する理解が大変深まりました。

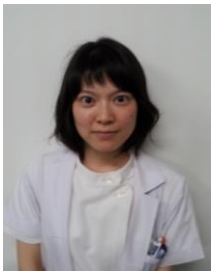
学術

この度、当教室の西智先生と山下真理子先生の英語論文がアクセプトされましたので、先生方に一言ずつコメントを頂きました。



助教　西　智（平成14年奈良県立医科大学卒）

今年の１月に、我々の研究を報告した論文が British Journal of Ophthalmology に掲載されました。今回の研究は、小児の遠視性不同視弱視症例の脈絡膜厚を測定し、健常群との比較を行いました。昨年の ARVO で報告した内容です。弱視眼では中心窩下脈絡膜厚が最も厚く、僚眼や健常群では1mm径耳側脈絡膜厚が最も厚いです。弱視眼の中心窩下脈絡膜厚は、僚眼や健常群に比べて有意に厚く、また弱視眼では中心窩下脈絡膜厚が最も厚く、健眼や健常群と脈絡膜厚が異なっていることがわかりました。論文が雑誌に掲載されるには、テーマの決定、データ収集から英語での論文作成と様々な段階で色々な問題が生じてきます。それを乗り越えても雑誌の編集者の意見もあったりして論文掲載されるのは大変ですので今回、掲載され嬉しかったです。論文の作成には緒方先生や医局の先生方に大変お世話になりました。今後もこの研究から発展して多くの研究を進めることができるように努力していきたいと思います。

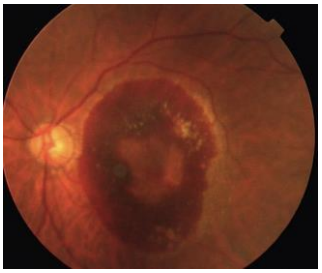


大学院生　山下真理子先生（平成22年奈良県立医科大学卒）

この度、Clinical Ophthalmology に論文が掲載されることになりましたのでご報告させていただきます。

論文の内容は、ラニビズマブ抵抗性を示した加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト切り替え後の経過についてです。アフリベルセプトは、ラニビズマブと比べ幅広い VEGF ファミリーと結合親和性が高く、効果持続時間が長いとされています。ラニビズマブに治療抵抗性を示しても、アフリベルセプトに治療効果をもつ症例が多い中、アフリベルセプト硝子体内注射後に突然の網膜下出血を来たした症例があることを報告しました。

今回このような論文を掲載することができたのは、緒方教授をはじめ、200%周りの先生方のおかげです。心より感謝しております。医局の先生方が研究、論文に励まれているのを拝見し、触発されながらもなかなか思うようにはいかない毎日ですが、日々頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



３回目のアフリベルセプト硝子体内注射の翌日に網膜下出血を来たした症例

新入医局員紹介

今年は東大阪の東診療所より森本先生が久しぶりに大学に戻って来られ、また新入医局員として 3 名が入局してくれました。ここ 3 年は入局者が一人という状況が続いていましたが、今年は 4 年ぶりにめでたく複数の入局となりました。それでは諸先生方に自己紹介をして頂きます。

森本絹子先生（昭和 55 年名古屋保健衛生大学卒）

18 年間勤めた東大阪市立東診療所が、今年 3 月をもって廃院になり、大学に勤めることになりました。診療所の頃は、重症患者が来るとすぐ紹介していました。大学には、そういった症例を引き受けて手術、治療をしてくれる“できる”医師がいてくれたこと、その先生方は後輩の指導にも熱心で、真面目な若い人達が毎日成長していること、また忙しい臨床の間に研究も行なわれていることなどを目の当たりに見て、今更ながら、大学は眼科の未来にとって大事な場所なのだと痛感しています。久しぶりに戻ってきた大学は、私にとって自分の未熟さを思い知るきびしい場所でした。いつも何かと教えてくださる先生方には、本当に感謝しています。

治村寛信先生（平成 24 年奈良県立医科大学卒）

今年の 4 月より奈良県立医科大学眼科学教室に入局させていただきました治村寛信と申します。眼科医として働き始めたばかりですが、様々な仕事を与えていただける喜びと同時に責任も強く感じております。まだ何一つ満足に行えない未熟者ですが、諸先生方のように立派な眼科医に近づけるように日々精進していきたく思っております。今後とも何卒よろしくお願い致します。

中尾重哉先生（平成 24 年愛知医科大学卒）

愛知医科大学を卒業後、県立三室病院での初期研修を経て平成 26 年 4 月より奈良医大眼科学教室に入局させて頂きました、中尾重哉と申します。診察や検査を通じて患者様と関わらせて頂き、自身の未熟さと責任の重さに奮闘する毎日ですが、優しい先生方に助けられ眼科医としての楽しさも日々感じております。諸先生方に見習い日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。

水澤裕太郎先生（平成 24 年奈良県立医科大学卒）

お初にお目にかかります。突如現れた超新星、水澤裕太郎です。
4 月から正式に奈良県立医科大学眼科に入局させていただき、外来、飲み会、手術、飲み会、当直当直と忙しい日々を過ごしています。
まだまだ未熟な身ですので日々精進を続け諸先生方に追いつけるよう努めてまいりたいと思います。　　ゆうたろう、やったろう！！！

海外学会報告

ARVO2014

奈良県立医科大学　西　　智

今年もまた昨年に引き続き ARVO に参加させて頂きましたので報告させて頂きます。今年は、オーランドということで、昨年のシアトルに比べるとリゾート地ですので、楽しみにして行きました。オーランドはフロリダ半島の真ん中で、温暖でしかもディズニーワールドやユニバーサルスタジオという二大テーマパークがあり、オーランドへ行く飛行機の中から明るい雰囲気でした。デトロイトまで 13 時間､デトロイトから 3 時間と長い空の旅です。デトロイトからの飛行機は、アメリカ縦断ということで機内からは五大湖が見え、また広大な砂地から湿地帯のフロリダ半島へと移り変わる景色を楽しみながらの旅は楽しかったです。

オーランド到着後翌日がポスター発表の日で、時差ボケしながらも頑張って朝の８時にポスターを貼り、10 時から弱視のセッションが始まりました。今回の発表は昨年に発表した遠視不同視弱視眼で脈絡膜が厚くなり、弱視眼では脈絡膜の部位別厚も健常眼とは異なるという内容の発展版で、眼鏡装用の治療後の変化をみた内容でした。２回目だったので発表にも少し慣れて、様々な国の眼科医の意見を聞くことができ、大変有意義でした。他には、未熟児網膜症の患者にオメガ３を補充することで、未熟児網膜症の進行の抑制ができるという報告や、網膜光感受性神経節細胞の活性化と瞳孔反応との関係に関する報告があり、今後の研究に役立つ貴重な意見を聞くことができました。

学会だけでなく、せっかくなのでテーマパークも楽しみました。ディズニーワールドは、約４つのパークに分かれていて、山手線の約 1.5 個分の大きさだそうです。やはり日本とは規模が違い、花火も火薬も広大な敷地を利用してのショーの数々は大変見応えがありました。日本に比べると待ち時間も少し短くアトラクションにも乗ることができて楽しめました。毎日とても良いお天気だったのでマジックキングダム、アニマルキングダム、エプコット、ハリウッドスタジオと４つのパークを楽しむことができて大満足でした。マジックキングダムは日本の東京ディズニーランドや懐かしの奈良のドリームランドを思わせる作りで懐かしかったです。アニマルキングダムは大きな白浜サファリパークという感じで車から眺めるライオンやアリゲーターは迫力満点でした。また、ハリウッドスタジオとエプコットは日本には無いテイストなので新鮮でした。ユニバーサルスタジオでは日本より一足お先にハリーポッターのお城にも行くことができ面白かったです。

海外学会で発表するのはやはり刺激があります。この経験を今後の臨床、研究に役立てるように精進したいと思います。

SLEEP（米国睡眠学会）2014

奈良県総合医療センター、社会人大学院生　宮田季美恵

2014 年 6 月 SLEEP2014 に参加させていただきましたので、報告させていただきます。
現在、眼科では 2 つのコホートスタディを進めています。1 つは通称：藤原京スタディで、70 歳以上の高齢者 2900 人を対象に「高齢者の元気の秘訣を探る」という目的のもと、地域健康医学教室、循環器内科、呼吸

器内科、精神科、整形外科、歯科、耳鼻咽喉科、皮膚科、栄養士、建築メーカー等と共同研究をしています。もう1つは通称：平城京スタディでサーカデイアンリズム（概日リズム）を主なテーマとし、地域健康医学教室と共同研究をしています。今回の学会では平城京スタディの研究を発表させていただきました。

SLEEP2014 はミネアポリスで開催されました。ミネアポリスは五大湖の近くで、東に隣接する州都セントポールとをあわせて Twin Cities（双子の都市）とも呼ばれています。メジャーリーグではミネソタ・ツインズの本拠地です。治安がよく、街も整備されており、とても過ごしやすい街でした。

睡眠の研究は幅広く、基礎研究から臨床研究まで多彩な発表・討論がされていました。臨床研究は睡眠そのものだけでなく、睡眠障害から起こる全身疾患（虚血性心疾患、虚血性脳梗塞、糖尿病、高血圧、鬱、認知症、癌など）の発表も多く、睡眠が全身に及ぼす影響の大きさを実感しました。睡眠は光刺激によって制御される概日リズムによってコントロールされています。光刺激の受容体は「目」であり、網膜神経節細胞に存在する光感受性網膜神経節細胞です。今回の発表は白内障による光透過性の低下が睡眠障害と関連しているのではないかという内容でした。シンポジウムでも白内障にふれる先生もおられ、今後注目されていく分野であると実感しました。今後の研究に生かしていきたいと思います。

ヨーロッパ糖尿病学会（European Association for the Study of Diabetes）とYシャツと私

済生会中和病院眼科、社会人大学院生　辻中　大生

2013年9月24日、私は滅多に着ることのないYシャツにスーツ姿でスペインの商都であるバルセロナに立っていた。同時に私はもうすぐ回ってくる自らのセッションに１％の期待と、そして９９％の緊張で高揚し、焦っていた。

「国際学会で発表してみるか？」とお話をいただいたのはその年の春、大学院生としての研究を指導いただいている生化学教室の高沢教授からであった。国際学会で発表できるなんて、とその提案に飛びついた私には、ポスターなら何とかなるかなという浅はかな考えが頭のどこかにあったのであろう。しかし、教授の次の言葉で私の余裕は吹き飛んだ。「ポスター発表だけど、オーラルで説明するセッションが回ってくるから。オーラルだと思って準備して。」つまり、全ポスターに対して１５分程度口頭で解説し、質疑応答をうけるセッションが回ってくるとのことである。当然、すべての応答は英語である。まったく自信がなかった私にとっては、どうやったら乗り切ることができるか見当もつかず、その日から戦いが始まった。もちろん、発音や専門用語の理解にも難があった。しかし、何よりも問題なのはリスニング力である。迷った挙句、Rosetta stone というパソコンソフトを購入することにした。そのソフトでオンラインの英会話レッスンをこなし、また通勤中の車内でリスニングのCDを聞き、余った時間はなるべく英語に費やすこととした。その甲斐あってか、初秋ごろにははじめと比べて少しは理解できるようにはなってきてはいたが、これくらいの付け焼刃でペラペラになるようなら、今までの日本の英語教育は見直す必要はなかったのであろう。正直、不安を残したままの出発であった。しかし、期待もあった。国際学会のスケールを生で見てみたい、そして、今の研究が世界で通用するかみてみたいという気持ちである。

セッションの座長が”Next speaker, please.”とおっしゃった後のことは緊張しすぎて正直記憶にあまり残っていない。会場では3つ、4つの質問もいただき、向こうの意図した答えだったか否かは別にして、理解不能で沈黙、だけは避けられたように思う。しかし、終わってみるともう少しましなディスカッションができたのではないかと思う気持ちの方が強く、少しの安堵感と共にもっと頑張らなければという思いを強くした学会であった。ただ、後から質問に来てくれた某米国大学の教授に、社交辞令とはわかっていたが、「いい研究をしているね。大学院を卒業したらうちのラボにおいで」と誘っていただき、国際学会はこういう出会いもあり、幅が広がるのだとあらためて感銘を受けた。

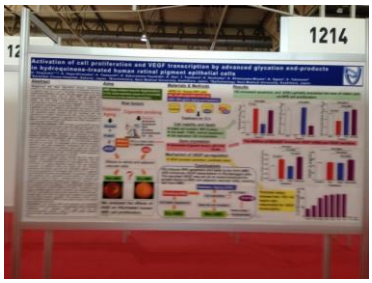
本当はバルセロナの町の魅力や出来事、観光のオプショナルツアーに申し込んでいたのに、日にちを1日間違えて全部パーになった話や、ネイマールとメッシの華麗なプレーをカンプノウで目撃した話などもした

かったのだが、紙面の都合上割愛させていただきます。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった高沢教授はじめ生化学教室の諸先生方、さらに１週間という長期出張を快くOKし、サポートしてくださった緒方教授はじめ医局の諸先生方、ならびに中和病院のスタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。またいい研究をして、国際学会で発表できたらなと思っています。

＜おまけ①＞

とあるランチョンセミナーにて。だされたお弁当がこれ。クラッカー、ベジラップ、リンゴ、水！日本の学会で出る松花堂弁当のような、いけてるスペイン料理を期待していた私にとっては、ある種のカルチャーショックであった。ただ、これはこれで潔くてよし、といったところか。セッションの間、みんなリンゴかじって聞いてました。



＜おまけ②＞

これがメインでしょ！と突っ込みを受けそうですが（笑）、ポスターです。最終糖化産物（AGE）が網膜色素上皮に与える分子生物学的影響を検討しています。加齢黄斑変性の病因解明の一助になればと願っています。興味がある方、是非声をかけてください！！！

新規開業のお知らせ

西岡眼科　佐藤ゆかり（平成元年川崎医科大学卒）

昨年１２月８日の父啓介の急逝に際し、緒方教授をはじめ、同門会の先生方には過分な御芳志を賜り、誠に有難うございました。遅くなりましたが、この機会をお借りし御礼申しあげます。また、医局員の先生方にも御理解をいただき、急な諸事情にも温かく対処していただき感謝しております。

非常勤医６年、常勤医２年と短い間でしたが、同門会の先生方には大変お世話になり、多くの事を学ばせていただきました。本当に有難うございました。そして、そろそろ傍にいてあげようかと思っていた矢先の父の逝去でした。地域の皆様の少しでもお役に立てることが自分の使命と、亡くなる前日まで診察をしていました父の姿を想うと、やはり西岡眼科を継承していくことが父の遺志だったのではと、再開する決意をいたしました。そして地域の患者様の温かい励ましと医局の先生方の支えのおかげで、５月１２日無事開院する運びとなりました。同門会の先生方には、今後、今まで以上にお世話になるかと思いますが、どうぞ宜しくご指導ご鞭撻お願いいたします。

かつらぎ眼科クリニック　葛城良昌（平成13年奈良県立医科大学卒）

この度、平成26年4月21日近鉄生駒駅前ベルテラスいこま4階医療モールフロアにて、かつらぎ眼科クリニックを開設させて頂きました。

開業して2ヶ月が過ぎましたが、勤務医の時に比べると、朝も早く起きる必要があり、夜も家に帰ると10時をすぎるようになりました。開業したら中休みの時間があるので、昼寝をしたりして休息できるのではと甘い考えをもっておりましたが、実はそんなことはなく業者の対応をしたり、医師会の会合にでたり、院内消

耗品を買いにでかけたりと、息つく暇もありません。ただ対応する患者様の層は全く替わり、診察することに対するストレスは軽減された気がします。眼底疾患の患者様にはほとんど遭遇せず、結膜炎や麦粒種、近視の眼鏡合わせの日々に追われています。カルテが山積みになって焦りながら診察することはなくなり、時間的な余裕が十分ありますので、患者様の話をゆっくり聞いてあげることができるようになりました。

先日ついに初めて当院で白内障手術を施行しました。今まではトラブルが生じたときにリカバリーして頂ける熟練された先生方、直介医師やナース、手術機械を準備及び片付けしてもらえる ME がいるようなめぐまれた環境で手術していたことを考えると、不安感でいっぱいでありましたが、何とか無事終えることができました。これでやっと本当の開業スタートができたのではないかと思っております。また第2・4木曜日の午後のみですが、大学にて引き続き外来診察させて頂いております。なぜか涙道外来？なのですが、こちらもこれから日々精進しながら勉強していく所存であります。

この医局員不足の中、わがままを貫いて開業させて頂き、緒方教授を初め医局員の皆様にはご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありませんでした。なんとか開業が軌道にのりましたらできるだけ同窓会には寄付（笑）させて頂きます。これからもいろいろとご迷惑おかけすると思いますがよろしくお願い致します。

奈良県立医大　眼科外来診察表

	月	火	水	木	金
1診	松浦	上田	交代制	緒方	交代制
2診	丸岡	岡本		峯/大萩 1,3,5週/2,4週	
3診	西野	西		増田	
4診	山下	長谷川		小林	
5診	福島	森本		益田	
専門外来	網膜硝子体 角膜	緑内障 神経眼科	2週/義眼 3週/角膜・CL	網膜硝子体 2,4週/涙道	網膜硝子体 神経眼科

・専門外来は完全予約制です。
・初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
・地域連携の予約は月・火・木が4名、水・金は2名可能となっております。

編集後記

平素は、奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き誠に有難うございます。諸先生方のご協力によりニュースレターも今回で7回目の発行となりました。誠に恐縮ですが、次回8回目のニュースレターより、同窓会の諸先生方から是非ニュースレターへご投稿をお願い致します。もちろんテーマは自由です。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまで何卒よろしくお願い致します。

メールアドレス　smaruoka@naramed-u.ac.jp　　奈良県立医科大学　眼科　丸岡真治